

キワニスドール 製作に試行錯誤

名古屋キワニス例会

社会奉仕団体「名古屋キワニスクラブ」(宮崎修二会長)は1日、名古屋市内のホテルで、白い木綿生地を綿を詰めた人形「キワニスドール」の製作例会を開いた。

人形は、主に病氣の子どもたちが顔や体を好きな色で塗ったり、医者や看護師に病氣の治療をわかりやすく教えてもらったりできるように真っ白で、目や鼻、口などが無いのが特徴。身

講師に教えられながら、人形を作る男性会員や学生たち



長約40センチ、体重約50gで、小さな子どもが抱きかかえやすい大きさだ。

この日は、同クラブの男

性会員や名古屋市立大看護学部(約60人)が参加。人形の周知活動を行っている12人の女性会員らが講師となり、製作に取り組んだ。「頭の部分まで、しっかりと綿を詰めてくださいね」などのアドバイスに、男性会員らは「難しいな」と試行錯誤しながら作っていた。

同学部4年の杉本帆乃夏さん(21)は「キワニスドールは知っていたけれど、作ったのは初めてで苦戦した。卒業後に看護師になったら、子どもと一緒に挑戦したい」と笑顔で話した。

キワニスドールを 作って医療機関へ

名古屋の奉仕団体

国際奉仕団体「名古屋キワニスクラブ」の会員やその家族は、名古屋市内のホテルで、病氣の子どもたちをばげます人形「キワニスドール」を製作した。作った人形は医療機関などに贈られる。

キワニスドールは身長四十センチ、体重五十gの人形。子どもが好きな色を塗ったり、顔を描いて遊べるように白無地になっている。医師や看護師が、子どもが受ける治療を説明するときなどにも使う。同クラブは十六年間で約百三十カ所の医療機関などに約四千九百体

人形に綿を詰める参加者たち
―中村区のホテルで



のキワニスドールを送ってきた。

この日は約六十人が参加し、「キワニスドールを作る会」が作り方を教えた。参加者たちは箸を使い、人の形をした袋に綿を丁寧に詰め込んでいた。同クラブの鈴木信好前会長(六四)は「入院している子どもの手に届き、癒やしや、勇気づけになればうれしい」と話した。